

JAしまねびより 11

2017

November Vol.20

特集 島根のいいもの再発見!! 「海士町 みかん」 隠岐どうぜん地区本部



Naomichi



焼火神社 (隠岐郡西ノ島町)

島根には誇れる農産品がたーっくさん！
島根のいいもの再生見!!
 直撃・生産者インタビュー！



みかん作りのために1ターンしてきた丹後さん(右)と白石さん

【海士町 みかん】

11月は、隠岐どうぜん地区本部。海士町の最南端に位置する崎地区へ1ターン、みかん栽培の再生に挑戦している、丹後貴視さん、白石宗久さんにお話を伺ってきました。



潮風いっぱいを受ける丘陵地に定植された島育ちの苗

東西に長く広がり、海も山もある自然環境豊かな島根県。島根には、胸を張って誇れる農産品が実は多種多様にあるんです。毎月、その農産品を紹介、生産者の生の声を聞いていきます！

崎地区のみかん再生とは、 どういうものですか？

崎地区では昭和30年代からみかんの生産が始まり、最盛期の40～50年代には生産者十数人で10ヘクタールを上回る栽培面積で生産、おもに隠岐郡内で販売されていました。崎地区は、海に面して日当たりも良く、甘みと酸味のバランスの取れた美味しいみかんが実り、通称「崎みかん」として住民からずっと愛されてきました。しかし外国産オレンジの台頭や栽培農家の高齢化・後継者不足等で、50～60年代に多くの農家が生産を辞め、みかん畑には杉や松(ひのき)が植林されました。近年は高齢の生産者4人、栽培面積0.4ヘクタールまで減少し、崎みかんは消滅の危機にありました。こうした状況の中、海士町が地域起こし協働隊の制度を活用し、みかん農家を募集。私たちはそれに応募、1ターンしてきました。海士町の皆さんはもともと、みかんが大好きで、食べたいという要望も多いことから、平成25年に「崎みかん再生プロジェクト」

として活動を開始しました。収穫できるみかんの木は現在、引き継いだ約1ヘクタールの畑で100本、年間8トン前後収穫しています。プロジェクトがはじまって、平成26年に400本、27年1,200本、28年1,800本を定植しました。おもな品種は昔から育てられてきた興津早生(おきつわせ)です。現在は2カ所で栽培面積延べ4ヘクタール、合計約2,800本の苗木が育っています。みかんは苗木を植えてから3年で実がなることから、順調に進むと平成32年の東京オリンピック時には現在の3倍程度の収穫が期待できま

現在はどのような状況ですか？



崎みかんの再生は島でも注目のプロジェクト

す。最終的には定植した本数で、100トン前後の収穫量を目指しています。



日本海を見下ろす南向きの斜面に広がるみかん畑

みかん栽培をはじめて大変なことなどありますか？

まず何よりも大変だったことは、はじめての就農ということに加え、みかん栽培自体、右も左も分からない状態からスタートしたことです。

当初、瀬戸内海の大崎上島（おおよそかみじま）へ栽培技術研修に2週間あまり行き、その後もアドバイスをいただいています。土壌環境や気候も違います。生育させるため、何が正解で、何が間違っているのかもわかりませんでした。夏場の草刈りが特に大変で



みかん作りの魅力や課題を熱く語る白石さん

ですが、いつ刈ったら良いか、どれくらい草が伸びたら刈れば良いのか、どれくらいのか、サイクルで刈れば良いのか、試行錯誤しながら一歩一歩、少しずつ経験を積んで前に進んでいます。隠岐牛の牛糞を活用した堆肥（たいひ）や、冬場の防寒対策として木の根元に海藻やウニの殻などを敷き詰めたり、ワラで作った衣を被せたりと、昔ながらの島の知恵を地元の方から教えても



昔ながら島ならではの工夫を聞き、取り入れ、実践

らい実践しています。移住し就農してからざっと5年になりますが、正直、こんなに大変だとは思いませんでした。ただ、海士町役場、JAしまね、地域の皆さん、色んな人達が親身になって明るく協力してくださり、支えてくださるので、使命感が湧き続け、大変ながらも楽しく、とてもやりがいを感じています。



みかん作りの拠点となる「日崎小学校」

今後の抱負や展望を聞かせてください。

苗木を大切に育てながら、なるべく早く生産体制を確立し、収穫量を増やしていきたいです。まずはお世話になった地域の皆さんに復活した「崎のみかん」をたくさん食べていただきたい。収穫規模が拡大すれば将来的には人員も必



みかん畑は、誰でも入りやすい環境を目指して整備が続けられている

要となってきました。そのため、女性でも就農できる体制作りにも力を入れ、急斜面に木が立ち並ぶのではなく、段差をなるべく緩くして働きやすい農場作りにもこだわっています。島の皆さん、島根全体、県外への出荷へと、この昔懐かしい美味しい「崎のみかん」を多くの方に味わっていただきたいと夢を描いています。



みかんを収穫する島の子どもたち

海士町 みかん 一口メモ

みかんは冬でも葉をつけている常緑樹で、生産は気候に大きく左右される。年間の平均気温が15℃以上で、最低気温マイナス7℃が限界とされる。和歌山や愛媛、静岡などで盛んに生産されている。海士町の崎地区は冬場マイナス6℃まで気温が下がり、販売目的のみかん栽培では、日本最北端の地と言える。海士町の中でも崎地区は冬と夏の気温差が激しい。厳しい環境の中でたくましく育ったみかんは、薄皮で身が詰まっており、甘みと酸味のバランスが絶妙で美味しい。



雲南

大人気の加工餅 製造ピークを迎える

雲南地区本部の人気商品の1つ「仁多もち」「飯南もち」の製造が最盛期を迎えました。祭事や年末年始用の「ひかり餅」と「粉餅」を製造しており、子どもからお年寄りまで味わえる「こだわりの味」を届けています。

同地区本部では、奥出雲もち加工場と頓原もち加工所の2か所でもち加工を行っており、9月から来年3月頃までに年間300トンの製造を見込んでいます。

この加工餅のこだわりは「搗(つ)きたて、杵つき」製法。精米したての管内産もち米を100%使用し丁寧に搗きあげられた餅は、食べた時の滑らかさやほど良い粘りと歯切れが特徴。管内のAコープ店舗や産直の他にも、関東・関西地方の百貨店やスーパーなどでも販売しています。

同地区本部営農部農産加工課の福田忠課長は「生産者の思いがこもったもち米を、自慢の製法で加工している。こだわりの餅を皆さんにお届けしたい」と話しました。



袋詰めされた餅を箱詰める職員

くにびき

八雲農縁隊が休耕田の草刈り

農家が抱える課題の解決に取り組む「八雲農縁隊」が10月11日、八雲町内にある休耕田の草刈りを実施しました。メンバーは自前の草刈り機で手際よく雑草を刈り取りながら、汗を流しました。

同隊は、八雲支店運営委員会(山根盈樹委員長)のボランティア活動の一環として、平成25年に発足。農家の高齢化が進み、維持管理が難しくなった農地が増える中で、地域住民から「何とかしてもらえないか」との要望を受けて結成されました。「地域との縁を結ぶ」という想いを込めて、農縁隊と名付けて、同町内を中心に草刈りなどの活動を展開しています。

当日は、運営委員と支店職員ら6人が参加。約35アールの休耕田のあぜ道には、セイタカワダチソウやススキなどの雑草が生い茂っていましたが、2時間ほどで全ての草を刈り終わりました。山根委員長は「草刈りをしてほしいという要望が増えている。他の組織との連携を模索しながら、現在の活動内容を見直さないといけない」と話しました。



雑草を刈っていく農縁隊のメンバー

隠岐

隠岐のこだわり米 「島の香り隠岐藻塩米」

隠岐地区本部では、隠岐の島町産のこだわり米「島の香り隠岐藻塩米」のブランド化に向けて、生産者と一緒に取り組んでいます。

この米は、平成15年からコシヒカリでの試験栽培を経て、現在は首都圏を中心に出荷し、また地元の飲食店などへも供給。平成25年からは、こだわりのお米屋さん「(株)スズノブ」の西島豊造社長、「(株)はくばく」和穀の会事業部の方々にアドバイザーとしてご協力いただき、本年度は18人の生産者が約40ヘクタールのほ場で栽培しています。

現在は、より高いレベルでの品質の統一や食味の平準化を進めるため、肥料の無償供給やライスセンターでの全量最終調整の採用など、これまで以上の品質で消費者へお届けできるよう取り組んでいます。

平成28年からは、安定して高品質な「きぬむすめ」での藻塩米栽培も本格化しており、本年度は3人の生産者が「美味しまね認証」を取得し、1.95mmふるい目を使用した「島の香り隠岐藻塩米特選きぬむすめ」として1,049袋を出荷しました。



やすぎ

やすぎ恋花まつり開催

やすぎ花卉部会は10月7・8日の2日間、安来市中海町の道の駅あらエッセで「やすぎ恋花まつり」を開催し、生産者が市内外にやすぎの花をPRしました。安来市は県内有数の花の産地で、同部会では72戸の農家が生産に当たっています。

イベントでは、安来産の色とりどりの花を使ったフラワーアレンジメントやDIYガーデニングの無料体験、地元幼稚園・保育園児が描いた花の絵展示、消費者による花の人気投票など、華やかな会場に多くの人々が訪れました。アレンジメントに参加した児童は「去年も参加したけど、きれいなお花をいけることが出来て楽しい」と話しました。

同部会の小池隼己部会長は「今後も花の品質向上を図りながら、イベント等を通してやすぎの花の知名度アップと消費拡大を目指していきたい」と意気込みました。



斐川

JA女性部が 園児たちと芋ほり体験

10月10日、JAしまね斐川女性部は食農教育の実践として、東部保育園、荘原保育園、荘原幼稚園の園児たちを招き、5月に一緒に植えたサツマイモの苗「紅はるか」700本の収穫作業を行いました。当日は天候に恵まれ、秋晴れの下、女性部と園児たち合わせ総勢100人での作業となり、大変にぎやかな芋掘りとなりました。

今年は芋の出来が良く、大きいものが多く、園児たちも笑顔で収穫し「見て見て～、大きな芋が採れたよ」「自分の顔と同じくらいだね」と喜んでいました。収穫を終えた後で、園児たちは女性部が用意した蒸かし芋を美味しく食べていました。収穫した芋は保育園、幼稚園に配られ焼き芋にされる他、女性部の活動にも利用される予定です。



収穫した芋を前に記念撮影

隠岐
どうぜん

家の光クッキング・フェスタ ～伝えたい島の味・ふるさとの味～

隠岐どうぜん地区本部は海士町中央公民館で10月22日、同地区本部管内では初めてとなる「家の光クッキング・フェスタ」を開催しました。

「島外から来ている高校生に、女性部と一緒に調理して島のおいしい味をおぼえて帰って欲しい」という扇谷光恵女性部長の願いにより、隠岐島前高校の寮生にも参加してもらいました。

料理研究家の枝元なほみ先生の指導により、前日から準備した地元食材をたっぷり使った先生考案のレシピ4品と、寮生考案のレシピ1品を作りました。また、米消費拡大運動「ニコニコおむすび大作戦」の一環として「隠岐牛むすび・乾燥ワカメのふりかけおにぎり」の2種類を作り、とても美味しいとの声がありました。

そのほか、枝元先生による「種子法廃止 タネがあぶない ～日本の食と農を守ろう」と題した講演や、家の光の読書会も行い、台風接近で悪天候の中でしたが、笑顔で元気になった一日でした。



石見銀山

女子大・シニア講座が 米検査見学

石見銀山地区本部のJA女子大学とシニア講座菜根館(さいこんかん)の受講生30人が、10月12日に地域の米作りについて学びました。

一同はJAの米倉庫(大田市久手町刺鹿)で、当日出荷された米の検査に立ち会い、ライスセンターを見学。案内役の農産課吉川崇課長から説明を聞いた後、検査員が無作為に米を抜き取り、米の状態を目視で確認し、等級をつける作業を見学しました。見学後は地区本部に帰り、JAしまね石見銀山女性部フレッシュミズ部会「つぼみくらぶ」が準備した、「つや姫」のおむすび、豚汁で昼食をとりました。

JA女子大学とシニア講座菜根館では、JAの基幹的作物である米について学ぶ講座を毎年のカリキュラムに入れていきます。普段一般公開していない米検査の様子やJAの米倉庫内を見学することが、地元産米のファン作りにも一役買っています。



検査の様子を見る参加者

出雲

島根きのご祭り初開催

島根きのご生産振興会は10月15日、出雲市のラピタ本店で、「島根きのご祭り」を開きました。同会から(有)奥出雲椎茸、田中しめじ工場、JAしまね出雲しいたけ部会が出店し、菌床生しいたけや舞茸、しめじなどを販売。県産の各種きのごを使用したきのご汁の販売や、きのごの展示なども行われました。

同会は県産きのごの増産、品質向上などを目的に平成25年に発足。県内の生産者15団体で構成されています。一堂に会し消費者へPRするイベントとして、きのご祭りを今回初めて企画しました。県林業課統括林業普及員の杉原雅彦さん(同会事務局)は「振興会があることを皆さんに知っていただき、県産きのごをPRしていきたい。第1回が開催できたので、今後も継続していきたい」と話しました。

当日は試食販売も行われ、しいたけや舞茸が焼ける香ばしい匂いに多くの人が集まりました。また、しいたけマスコットキャラクターの「サンマッシュくん」も登場し会場を盛り上げました。



各団体が試食販売でPR

西いわみ

西いわみメロン部会 「アールス初出荷」

西いわみ地区本部では10月9日、秋作のメロン「アールス」の出荷が始まりました。

特産のアムスメロンや春作トマトの後作として栽培しており、7月上旬から中旬にかけて種をまき、7月下旬から8月中旬に定植したものが収穫期を迎えました。

同地区本部の営農経済部担当者は、「定植期からの天候に恵まれ、玉太りやネット張りは上々の出来となった」と話しました。

当日は益田市飯田町のJA多品目選果施設の12戸の農家が950箱（一箱8キロ）7.6トンのアールスメロンを持ち込みました。

出荷は11月上旬までの約1ヶ月、主に大阪市場へ出荷します。JAでは今年度の計画を出荷量132トン、販売金額を6,200万円としています。



島根おおち

「ふれあい農園」芋掘り交流会

島根おおち青年連盟、女性部、島根おおち地区本部の3者が協力し、10月10日、邑南町中野地区の「ふれあい農園」で保育園児を対象に芋掘り交流会を開催しました。管内10保育所から園児112人が参加し、青年連盟が園児らと共に6月に植えたサツマイモを収穫し、女性部が昼食会を開きました。

今年は、夏場の天候が良かったことから生育が良く、サツマイモが大きく育ち、園児らは、盟友の手を借りながら力いっぱい掘りました。昼食会では女性部員が、収穫したサツマイモを使って、サラダや団子汁などを作りました。また今回は同地区本部で生産している石見高原ハーブ米の新米を用意し、ラップに包んだご飯を音楽に合わせておにぎりにしました。

青年連盟の玉川幸司委員長は、「芋ほり交流会は今年で13年目を迎えました。今後も青年連盟、女性部、JAが協力し、子どもたちが土に触れ、野菜について知る機会を提供することで、地元の作物を知り、農業の良さを伝えていく活動を進めていきたい」と話しました。



昼食会でメニューについて説明する女性部員

本店

しまね子育てフェス inいわみ開催

JAしまねは10月28日、浜田市金城町のふれあいジム・かなぎで「しまね子育てフェスinいわみ」を開きました。JAの利用者だけではなく、幅広く地域の皆さまの子育てを支援することを目的に開催。今年2月の松江市くにびきメッセでの開催につづいて2回目となります。台風が近づく中、雨模様での開催でしたが、約8,000人の親子連れに会場いただきました。

メインステージでは、アンパンマンや仮面ライダー、プリキュアのステージショー。イベント会場では、輪投げやシューティングビンゴなどの縁日コーナー、ミニ新幹線やトイレールなどのアトラクションを行い、会場は子どもたちの歓声とともに賑わいました。

JAでは今後もこのようなイベントの開催などを通じて、出産・育児の支援や地域貢献の取り組みを行ってまいります。



縁日コーナーで遊ぶ子どもたち

いわみ中央

地元の食材で秋を満喫

JAしまねいわみ中央女性部弥栄（徳田マスエ部長）は10月11日、浜田市弥栄町長安本郷にある林友館で1日農家レストランを開きました。

バイク方式のランチに、地元の住民はもとより、多方面からも来場されて会場はいっぱいになり、約100人が秋を満喫しました。

徳田部長は「本日の農家レストランは、地元の食材がほとんどで、収穫した野菜やお米そして、山菜もすべて女性部が育てたものです。田舎料理をどうぞゆっくり召し上がってください」と挨拶しました。

秋の食材をふんだんに使い、黒米おはぎやごみ酢味噌和え、そうめん瓜やさつま芋の天ぷら、手作りこんにやくの田楽など珍しいメニューが並びました。来場者は「毎年農家レストランを開いてほしい。田舎料理が食べられて嬉しい」と話し、大好評でした。



ぎゅ〜っ と根 島大産直市 2017

12月9日(土) くにびきメッセ 多目的ホール 9:30~15:00

駐車場 旧県立プール跡地広場 (約340台)

生産者&JAが
島根農業の
魅力を伝えます♪

飲食スペース
をご用意
いたします!



島根県5高校による
“えんむすびショップ”

松江農林高校、出雲農林高校
邇摩高校、矢上高校
益田翔陽高校

着先200名様

アンケートに答えて
“たまご”をもらおう!
たまごの販売もあるよ!

杵つき餅
実演販売



地産地消の
あったか〜い
“とん汁”販売
1杯100円
11:00~
(開始予定)

島根県産
牛乳の
試飲コーナー

【協賛出店】
■島根ワイナリー ■JAアグリ島根

〈お問い合わせ先〉

JALしまね営農対策部担い手対策課 0853-25-8142

JAバンク
マスコットキャラクター



©ちよリス

〜担い手農家とTACがつくる島根の農業〜

同時
開催



アグリミーティング 2017 in くにびきメッセ

会場: くにびきメッセ 大展示場 9:30~15:00

主催: JALしまね JA全農

※記載の催しの内容および開催時間等は予告なく変更となる場合がございますので予めご了承ください。※記載のイラスト等は全てイメージです。

母衣小5年生

稲刈り体験

くにびき青年連盟



くにびき青年連盟（野津喜洋委員長）は10月5日、農業の魅力を子ども達に知ってもらおうと、きぬむすめの稲刈り体験を開きました。6月に田植えを行った母衣小5年生が参加し、稲を刈りながら収穫の苦労と喜びを体感しました。

当日は、くにびき地区本部本店の北側に位置する7㍗の田んぼに、児



はでに稲わらをかける作業も体験



盟友から教わりながら、稲を縛っていく児童

童79名が集合。盟友8名が参加し、稲の刈り方を解説。「地面から10センチくらいのところで刈る」と、実際に鎌で稲を刈り取りながら、分かりやすく説明しました。

早速児童たちは、鎌を手にして稲刈りを開始。鎌の扱い方に慣れてないため、最初はなかなか上手く刈れませんでした。慣れてくると、互いに競うように稲を刈っていきました。刈った稲を、よりで縛ってはでに掛ける作業も体験し、一連の収穫作業を終えた児童は、はでに掛かった稲を誇らしげに眺めていました。

初めて稲刈りをしたという濱崎夏さん（11）は「簡単だと思っていたけど、意外に体力を使って大変でした」と感想を述べ、原瑠汰君（10）は「最初は稲を刈って結ぶのが難しかったけど、慣れてくると楽しかった」と笑顔で話しました。

収穫の秋到来！

忌部田んぼアートで稲刈り

品種の異なる稲を使って、田んぼに絵を描く「田んぼアート」の稲刈り体験が9月30日、西忌部町の水田で開かれました。地元組合員や親子連れら115名が参加し、稲を刈りながら、実り豊かな秋を体感しました。

忌部の豊かな自然を知ってもらおうと、忌部地区流出水対策協議会（松浦久義会長）などが、2012年から毎年企画。今年は、広さ約17㍗の水田に、古代米7種類ときぬむすめを植え、山陰ケーブルビジョンのイメージキャラクター「まるっとくん」を描き、道行く人の目を楽しませました。収穫した米のうち、きぬむすめは精米2キロ袋として、参加者に配布します。

当日は、雲ひとつない秋晴れのもと、

地域住民の他にも、乃木支店・忌部店、松江上下水道局の職員らが集いました。参加者は、ノコギリ鎌を手にして、まるっとくんの絵柄部分の稲を刈り取りました。ぬかるんだ泥に足を取られつつ、懸命に稲を刈り、丸く実った稲穂に笑顔が浮かべていました。

参加した忌部小学校4年の和田穂百（おと）さん（10）は「苗の種類によって刈り取りやすさが違ったけれど、上手く刈ることができて良かった。収穫したお米を食べるのが楽しみ」と話しました。

くにびき地区本部運営委員も務める松浦会長は「今年も綺麗な絵柄で、無事収穫もできた。来年も素晴らしいものになりたい」と話しました。



刈った稲を運ぶ参加者

稲を刈り取って笑顔を見せる子ども達



ふれあい親子いもほり大会

実りの秋!

くにびき地区本部は10月8日、東出雲町中海干拓地の圃場で、「第28回ふれあい親子いもほり大会」を開きました。参加者は、丸々と実った芋を掘りながら、収穫の秋を楽しみました。

親子で土に触れ、農業の魅力に理解を深めてもらうと、同地区本部とくにびき青年連盟（野津喜洋委員長）が主催。6月に、青年連盟とくにびき女性部（中島和子部長）、サンサン女子大学の学生と一緒に植え付けたサツマイモ「紅はるか」「ベニアズマ」の苗4千本が豊かな実を付けました。

当日は秋晴れの下、61組の家族201名や女子大の学生など、総勢260名が参加。開会式では、田中鈴夫副本部長が、「農業の素晴らしさと収穫の喜びを家族で体験し、大きい芋を取れるよう楽しんで下さい」とあいさつ。圃場に移動した後、野津委員長との合図で、100列の畝に並んで、一斉に芋掘りをスタート。芋の葉をかき分けながら、懸命に芋を探し、予想以上に大きな芋が現れると、歓声を上げていました。中には、土から飛び出したモグラに驚く人や、芋の茎を不思議そうに眺める子どももあり、自然のおもしろさを堪能していました。



芋を掘り終わると、女性部員が作る「芋だんご汁」

を味わったり、シートを敷いて収穫した芋の大きさを比べ合ったりするなどして、秋晴れの休日を楽しみました。

この他にも、「芋の重量当てクイズ」や掘った芋の重さを競う「ジャンボ芋コンテスト」の企画もあり、コンテストでは、重さ2・8kgの芋を掘り出した西田惺也君（5）が1位に輝きました。

家族と参加した川本翼さん（7）は「大きいのは取れなかったけど、広い畑で芋を掘ることができて楽しかった」と話し、荒木澄夫さん（80）は「上乃木8丁目」は「取った芋は、煮るか、芋粥にして味わいたい」と、笑顔を見せました。

懸命に芋を掘り出す参加者



ジャンボ芋コンテストで1位になった西田くん（中央）

サンサン女子大の学生

毎年恒例の

ジャンボかぼちゃコンテスト

合計58個が集結!

当日は、支店運営委員、集落委員、JA職員ら26名が参加。始めに、同運営委員会の池田委員長が「今年は准組合員の方も対象としたこともあり、たくさん出品してもらった。多くの人に、自然の中で作物を育てる楽しさを体験していただきたい」と挨拶しました。

カボチャの苗は、5月に津田支店から約200本を管内の生産者に配布。8、9月の天候不順により厳しい生育状況でしたが、47名の方から、合計58個のカボチャが出品されました。当日集まったカボチャは重さ50kgを超えるものもあり、中には3人で運ばなければならぬほどのカボチャもありました。

おもちゃカボチャ部では、西津田3丁目の准組合員・若槻るみ子さんが、「福寿」などの文言をカボチャに記すといった意匠を凝らし、他の出品者の目を引きました。

結果は次の通りです。



津田支店運営委員会（池田仁志委員長）は10月7日、「第18回ジャンボかぼちゃコンテスト」を、JA竹矢店倉庫で開きました。両手では抱えきれないほどのカボチャの重量を競い合い、実りの秋を感じさせました。

コンテストは、農産物の魅力をPRしようと、同運営委員会が毎年開催。団体と個人の部、さらに今回新たに企画した「おもちゃカボチャ」の部で審査。団体の部では一集落3個のカボチャの総重量により順位を決めます。各部の上位に入選したカボチャは、支店管内の幼稚園や保育所に展示する予定です。



おもちゃカボチャに出品した若槻さん（左）と池田委員長

〔団体の部〕			〔個人の部〕			〔敬省略〕		
1位	大庭・黒田睦	112.4kg	1位	岡田 宏美（八幡町）	54.5kg			
2位	大庭・有	102.kg	2位	松尾 衛尚（馬潟町）	50.0kg			
3位	竹矢・上竹矢	89.7kg	3位	角 録郎（八幡町）	48.2kg			



石原沙季子さん

みどりを守る児童画コンクール 八雲小6年の石原さんが県知事賞!

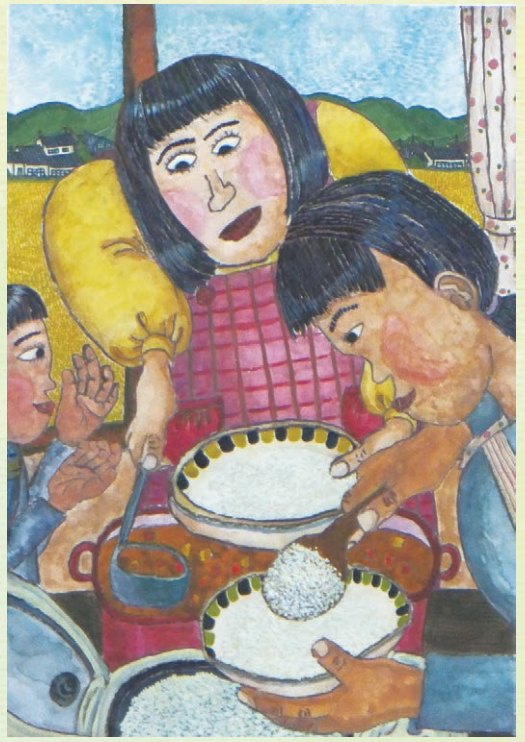


「第43回みどりを守る児童画コンクール」(JAしまね主催)で、八雲小学校6年の石原沙季子さん(12)の作品「新米の季節」が、島根県知事賞に選ばれました。石原さんは「県知事賞に選ばれたのは2回目。びっくりした」と話しました。

同コンクールは、みどり豊かな自然の大切さや農業の役割を理解してもらおうと、毎年開催。今年は県内118校から770点の応募があり、入賞・入選作品は10月中旬から11月上旬の間、島根県立美術館などで展示されました。今回石原さんが出品した作品は、約2週間かけて制作。炊きたてのご飯を囲んだ、家族の団らん風景を描き、手の大きさや、人物の配置に工夫を凝らし、米を介して家族の温もりが伝わる作品に仕上げました。審査員からは「豊かな色彩表現から、新米を皆で食べる感動が伝わってくる」と評価されました。

石原さんは「お父さんとお母さん、おばあちゃんにほめられたし、たくさんの人に自分の作品を見てもらえてうれしい」と笑顔で話しました。

入賞・入選作品の一部は、2018年版くにびきオリジナルカレンダーに掲載する予定です。



島根県知事賞受賞作「新米の季節」

異業種交流!

安達盟友が

地域農業について

異業種交流を目的とした「第6回事業者交流会」が9月27日、黒田町の松江堀川地ビール館であり、くにびき青年連盟(野津喜洋委員長)の安達隆行盟友(36) 〓本庄地区 〓が、松江市の農家を取り巻く現状について報告しました。

交流会は、官民でのビジネスマッチングにつなげようと、まつえ農水商工連携事業推進協議会(松浦俊彦会長)が主催。今回は、JA職員や若手農家の他、松江市、飲食業、宍道湖漁協などの関係者ら約100名が参加しました。

最初に松江市の矢野正紀部長が地産地消の取り組み方針について説明。その後、特産品を使った地域活性化策の提案や、都市部へ特産品を売り込む手法などについて、各事業者から報告がありました。

安達盟友は、青年連盟の活動状況をはじめ、島根県内の農業人口が減少している状況を報告。課題を解決するために、若手農家を中心となり、松江を代表する特産品の創出を提案しました。「特産品の存在が、農家の収益を向上させるだけで

現状について語る
安達盟友

熱弁

なく、商品開発も可能になり、地域を盛り上げるきっかけになる」と強調。「他業種の方々との連携を模索しながら、若手農家の存在をPRしたい」と結びました。





城内に生える樹木も見学

くにびき女性部 松江城めぐり

くにびき女性部は9月28日、目的別グループ活動・文化歴史教室として国宝・松江城の周辺を巡りました。敷地内に生えて、緑の風景を見学しながら、城にまつわるさまざまな歴史を学びました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、ボランティアガイドとともに、松江城周辺を散策開始。石垣や鉄砲を打つための「狭間」について説明を受けながら、松江城を見学しました。

途中、城山公園も巡り、

昭和15年に植えられた「なんじゃもんじゃ」の木をはじめ、巨大なクスノキや、葉書としても使える「タラヨウ」など、城の周辺に生えている植物や樹木の由緒について説明を受けました。

参加者は「松江城には何度も来ていたが、珍しい樹木がこんなにあるとは知らなかった」「豊かな自然もあることが分かっておもしろかった」と話し、松江城を取り巻く自然史について、理解を深めたようでした。



ボランティアガイドの説明に耳を傾ける参加者

職員の接遇能力を競う 自動車共済 カウンター セールス コンテスト

くにびき地区本部は10月5日、自動車共済担当（スマイルサポーター）の接遇技術を競うカウンターセールスコンテストを開きました。管内の12支店から担当職員12名が出場し、互いの接遇能力を競い合った結果、美保関支店の陰山捺美職員が1位に輝きました。

出場した職員は、世間話を通じて、利用者のニーズや情報収集を行い、自然な流れで特約の内容を紹介するなどして、成約に結びつけました。1位となった陰山職員は10月25日の島根県大会に出場。惜しくも入賞は逃しました。

同コンテストは、自動車共済利用者へのサービス向上と職員のスキルアップを目的に毎年開催。事前に定められた設定のもと、15分間で、利用者のニーズを把握し、自動車共済「クルマスター」の契約を、利用者

役の職員に勧めます。審査員は、「接遇」「アプローチ」「情報収集」などの項目に分けて、一連のやり取りを5段階評価で審査しました。

出場の職員は、世間話を通じて、利用者のニーズや情報収集を行い、自然な流れで特約の内容を紹介するなどして、成約に結びつけました。1位となった陰山職員は10月25日の島根県大会に出場。惜しくも入賞は逃しました。



特約などについて説明する職員(左)



表彰を受ける陰山職員

全共連島根県本部の藤原拓志課長は講評で、「各職員とも、相手の反応や顔をしっかりと見ながら対応しており、素晴しかった」と評価。「日々の業務でも思いのこもった対応を心掛けてほしい」と話しました。

年金友の会 ゴルフ大会!

元気なプレーで交流はかる!



くにびき地区本部は10月25日、「第14回年金友の会グラウンドゴルフ大会」を、東長江町の松江市ニュースポーツ公園で開き、団体の部は東出雲Bと宍道Aが優勝しました。

くにびき年金友の会（三島武会長）では、スポーツを通じて健康増進、会員の交流を図るため、毎年大会を開催しています。各地区から32チーム、合計160名が出場。16ホールを回り、日々の練習で培った技術を競いました。

開会式では、三島武会長が「グラウンドゴルフは最後まで勝負が分らないスポーツ。親睦を深めながら楽しんでください」と挨拶し、宍道の森山正律さんが元気に選手宣誓を行いました。また、高齢参加者表彰として、87歳の



熱戦を繰り広げる参加者



選手宣誓をする森山さん（中央）



山根正昭さん（美保関）をはじめ、男女合わせて5名に記念品を贈呈しました。

その後、ホールに分かれて試合を開始。参加者は勝利を目指して、声を掛け合いながら回り、秋晴れの空の下で汗を流しました。

男島さんチーム（鹿島）の権田宏さんは「序盤はなかなか調子が出なかった」と話した一方で、美保関Bチームの宮崎昭さんは「久しぶりに参加した。皆と一緒にプレーできてとても楽しかった」と、笑顔で話しました。

平成29年産米集荷状況 目標12万袋! 1袋でも多く出荷をお願い致します 平成29年10月27日現在

(単位:袋・%)

品種名	申出数量	集荷数量	等級			1等米比率	申出数量対比	
			1等	2等	3等			
うるち	ハナエチゼン	14,092	12,295	5,610	6,272	413	45.6%	87.25%
	コシヒカリ	43,575	34,554	6,744	18,127	6,927	21.2%	79.30%
	きぬむすめ	36,288	25,227	11,127	9,780	2,112	48.3%	69.52%
	つや姫	18,608	21,792	14,210	4,596	581	73.3%	117.11%
	その他	0	108	36	72	0	33.3%	0.00%
	うるち計	112,563	93,976	37,727	38,847	10,033	44.3%	83.49%
もち	1,694	896	0	691	205	0.0%	52.89%	
合計	114,257	94,872	37,727	39,538	10,238	43.8%	83.03%	

※各品種の「じみ米」は品種数量に包含しています。※各品種の数量には加工用米を包含しています。

	申出数量	集荷数量	等級			1等米比率	申出数量対比
			1等	2等	3等		
加工用米	3,196	2,958	889	1,714	355	30.1%	92.55%
目標数量	120,000		集荷袋数			目標数量対比	
			94,872			79.06%	

地域の元気下



枕木町 松本 順子 さん

ユズや柿の樹木が生え、中海が一望できる枕木山の中腹に、松本順子さんの自宅があります。松本さんは、橙色に実った西条柿の木の周辺で、日々の草むしりに精を出しています。

生い立ち

松本さんは生れも育ちも八東町。生家では、パンジーや牡丹などの花を主に育てていました。本格的に農業を手伝うようになったのは、中学生からで、学校から帰ると、親の置手紙に書かれた場所に持って、農作業を手伝っていました。松本さんによると、当時は、農家が多く、農繁期に学校が休みになる「農繁期休暇」もあり、「学校終わり

に農作業を手伝うことは当たり前」だったと、振り返ります。

また、当時は養蚕も行っていたため、季節になるとカイコのえさになる桑の葉をたくさん取らなければならず、年中忙しかったそうです。「大きな声では言えないけど、宿題はそっちのけだった」と、苦笑いを浮かべます。

現在

その後、保育士の学校を卒業した後、39年間にわたり保育士一筋で勤務。27歳の時には、夫・正さんと結婚して、現在の家に暮らしています。自宅前には幹の太いユズの樹木が立っており、鮮やかな黄色の実をならせています。ま



松本さん宅前にそびえ立つ、巨大な柚子の木

た秋になると、柿の収穫や干し柿作りなどで多忙を極めますが、「私は草取り専門。まあ年中忙しいわね」と話します。合間を縫って、JAが開く料理教室やJA女性部の活動にも参加して、同世代の女性たちと交流を深めています。

グラウンドゴルフとの出会い

忙しい日々の中で、趣味のグラウンドゴルフは松本さんの心身に活力をもたらしています。退職後に入学した「シマネスクにびき学園」の授業で、初めてグラウンドゴルフを体験したのがきっかけでした。最初こ



真剣な表情でホールインワンを狙う松本さん

かったりするのがおもしろい」と感じるようになりました。現在では、ねりんピックにも出場するほどの実力者ですが、大会に参加することで、地域を越えた友人もできるのが楽しみだと言います。「ゴルフとJAの活動で、地域を越えた人とも仲良くできてるのが元気の理由かな」と話しました。

そ「あんまり楽しくないな」と思っていました。慣れ、技術が向上してくるにつれ、「自分の思い通りにいったり、いかな



お便りコーナー

たくさんのご意見、ご要望をありがとうございます。いただいたおハガキの一部をご紹介します。

9月号の表紙の絵は、「ウノトリの巣作り」の表現がよく、心温まる家族を思い浮かべながら、拝見しました。ほのぼのとした幸せな気持ちになりました。
(Y・O)

「ふるさと料理」で八束町の「ねほし」が紹介されていて、とても懐かしかったです。今の時代は、おやつをどこでも購入できますが、私が子どもの頃は家でイモを焼いたり、煮たりしたのがおやつでした。「ねほし」は見えた目の派手さはないですが、栄養満点です。郷土料理として傳承されていくのを願っています。
(Y・K)

毎月楽しく読ませていただいております。農業は年に何回か主人の手伝いをするほどの私ですが、内容が盛りだくさんなので、ついつい最後まで読んでしまいます。
(T・T)

表紙の絵が素晴らしいですね。「来月はどんな絵かな」と楽しみにしています。「しまねくびき」で「リンキー」という名の野菜を初めて知りました。これからお店でよく探してみたい。料理に挑戦してみようと思います。
(T・E)

くにびき女性部がお届けする 松江に伝わるふるさと料理

松江に伝わる郷土料理を次代へ伝承していくため各地区のメニューを季節ごとに紹介します。



むかごご飯・甘辛煮

むかごは山芋や長芋のつるに生える1~2cmの芋で、秋の味覚でもあります。昔から親しまれてきた食材で、素朴で懐かしい味わいのむかごご飯と、香ばしく、お酒やご飯がすすむ甘辛煮を紹介します。簡単にできますので挑戦してみてください。甘辛煮は出来上がってから時間を置いた方が、味がしみておいしいです。

むかごご飯

【材 料】4人分

- ・米……………2合
- ・酒……………大さじ1
- ・塩……………ひとつまみ
- ・むかご……………1合
- ・薄口しょうゆ……………大さじ1
- ・だし昆布……………10cm

【作り方】

- ①むかごはよく洗ってざるにとり、水気を切っておく。
- ②米は炊く30分前に洗い、ざるにとり水気を切っておく。
- ③釜に米、調味料を入れ混ぜ合わせて、白米を炊く時と同じ水加減にする。
- ④お米の上のだし昆布とむかごをのせて炊き、10分程蒸らしてできあがり。



甘辛煮

【材 料】

- ・むかご……………300g
- ・濃口しょうゆ……………大さじ3
- ・みりん……………大さじ3
- ・サラダ油……………大さじ3

【作り方】

- ①むかごをきれいに洗い、竹串が通るまで茹でる。
- ②フライパンに油を入れ熱し、茹でたむかごを炒める。
- ③2~3分炒めたら調味料を加え、水分がなくなるまで煮からめて出来上がり。

今月の料理人

古江支部

多久和瑞枝 さん(右)
田淵美貴子 さん(左)



むかごを洗う際、ネットに入れてもみ洗いと、汚れが簡単に取れます。

むかごは生のまま炊いた方が本来の味を楽しめますが、苦味が好みでない方はさっと茹でてから炊くと苦味が和らぎますよ。

参加者募集!

サン・サン料理教室

日時

2017年12月20日(水) 10:00~13:00

※開催時間より開始しますので、時間に余裕をもってお出かけください。

場所

くにびき地区本部
San・san館 松江市西川津町1635-2

「玉湯町そば打ち名人」細田純夫氏(元JAくにびき理事)を講師に、松江で実った玄丹そばで「出雲そば」を皆で打ちましょう。組合員、利用者、松江市民を対象に参加者を募集します。(男性大歓迎!)



(写真はイメージです)

12月のメニュー

松江で実った玄丹そばで「出雲そば」を打ちましょう
女性部特製! 具だくさんみそ汁を添えて

★手打ちそば ★豚肉と白菜のみそ汁 ★お土産付き

(メニューは都合により変更させていただくことがあります)

募集人数 20名程度

組合員、利用者、松江市民を対象に募集します。(男女を問いません)

参加費 1,000円(当日支払い)

準備品 エプロン・三角巾・マスク・筆記用具など

申込締切 平成29年12月8日(金)

お申込み/お問合せ

①住所②氏名③電話番号をご記入の上、はがき・FAX・Eメールでお申込みください。

〒690-0823 松江市西川津町1635-1

くにびき地区本部 総務部ふれあい課 TEL: 55-3018 FAX: 32-6870
Eメール: community-affairs.kun@ja-shimane.gr.jp

くにびき地区本部 中途採用職員紹介

☆JAしまねくにびき地区本部の新しい顔！
中途採用職員をよろしくお願ひします。

(平成29年11月1日付)

- ①出身地区
- ②趣味・特技
- ③好きな言葉
- ④自己PR
- ⑤配属先



梶 晶博

- ①出雲市大社町
- ②野球 ③七転八起
- ④元気良く、ハキハキと仕事をやり組んでいきます。JAの役に立てるように頑張ります。
- ⑤米穀畜産課



門脇 菜

- ①松江市八束町
- ②釣り・ガーデニング
- ③挑戦
- ④今までの経験を活かして業務に取り組みたいです。体力に自信があるので粘り強く頑張ります。
- ⑤営農指導課



青戸 駿

- ①松江市東生馬町
- ②料理、映画鑑賞、水泳
- ③置かれた場所で咲きなさい
- ④地域のために頑張ります。
- ⑤経理課



安部 敬祐

- ①松江市上東川津町
- ②魚釣り、読書
- ③平和
- ④地域に貢献できるよう精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。
- ⑤営業課



森脇 小晴

- ①松江市学園 ②カラオケ
- ③Time waits for no one.
- ④人と話すことが好きです。自分からも積極的に話していきます。話しかけられることも嬉しいです！社会経験は浅いですが、一生懸命頑張ります！宜しくお願いします！
- ⑤古江支店



持田ひかり

- ①松江市島根町
- ②ネットショッピング、映画鑑賞
- ③なぜか成る
- ④何事にも前向きに取り組み、元気で笑顔忘れず、精一杯頑張りたいと思います。
- ⑤津田支店

有効期限のお知らせ

おさいふカードポイント

平成27年に付与された「おさいふカードポイント」の有効期限は平成29年12月31日までです。対象となるポイントは、店頭端末、支店窓口などでご確認ください。

JAしまね
くにびき地区本部
農機・自動車

秋の合同展示会

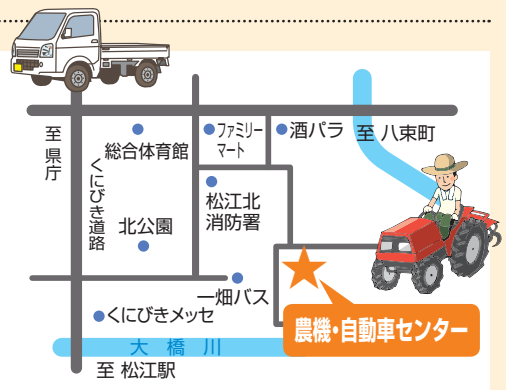
開催日：11月18日(土)、19日(日)

時間：両日とも午前9:00～午後4:00

場所：農機・自動車センター、
松江市西川津町1635-7

内容：自動車、農機を多数展示！
ご来場の方には、各種記念品をプレゼント致します。

※記念品は数に限りがございますので、なくなり次第終了します



お問い合わせは農機センター (0852-55-3066) 自動車センター (0852-55-3077)

平成29年度分農業所得申告支援システムのご利用について

- ① 平成28年度に農業所得申告支援システムをご利用いただいた方
11月のふれあい訪問日にてダイレクトメールを送付しておりますので内容をご確認下さい。
- ② 平成29年度から新規ご利用を希望される方(上記以外の方)
最寄りの支店・店窓口にて申込み手続きを行って下さい。

お問い合わせは、営農経済部 営農企画課 (☎55-3030)

12月 くにびき地区本部 各種相談会カレンダー (税・ローン)

※各相談とも無料でお受けしています。

日	曜日	相談会内容	場所・備考
1	金	税務相談会	法吉支店 TEL: 23-2424 10:00~12:00
4	月	税務相談会	東出雲支店 TEL: 52-2022 10:00~12:00
5	火	税務相談会	中原出張所 TEL: 21-2567 10:00~12:00

※税務相談会のご予約は、開催日2日前までにお願ひいたします。予約先:開催会場となる支店まで。

〇くにびき地区本部金融部ローン営業センターでは、毎週土曜日(10:00~15:00)に休日住宅ローン相談会を開催しています。要予約。

◆お問合せは☎0120-988-380まで。

12月 ふれあい訪問日 12月13日(水)、14日(木)



ハクサイ の 上手な貯蔵方法

板木技術士事務所 ● 板木利隆

大きく育ち、固く結球したハクサイは、一斉に収穫するだけでなく、ある程度畑に残して順次収穫し利用したいものです。

この場合、畑でそのままにしておくと、厳しい霜や寒風のために、球の頂部の柔らかい葉や外葉がカサカサになり、やがてそこから腐って食べられなくなります。防寒対策を施して長い間利用したいものです。

一番簡単な防寒対策は、霜が降り始めたころ、先に収穫した株の少ししおれかけた外葉を球の頭上に4~5枚覆いかぶせておくことです。少ししおれかけていた方が球になじみやすく風で吹き飛ばされにくいので好都合です。

畑にある程度長く置く場合は、なるべく多くの外葉で球を包むようにして、ポリテープや細縄などで縛っておきます。元気が育つと葉折れがひどく、作業しにくいので、多少霜に遭い葉が柔らかさを増してから作業するようにしましょう。

相当広い面積の畑で多数の株を貯蔵するには、べた掛け資材（長繊維不織布、割繊維不織布）を広げて、頭上に2~3枚重ね掛けするのが効果的です。プラスチックフィルム、特にポリフィルムは、じか掛けにするとその直下は一時的に外気温よりも低くなってしまいますので、使用しないでください。

大面積の栽培での本格的な貯蔵法として困り貯蔵法

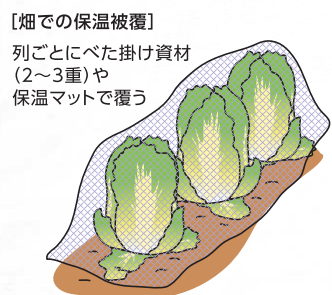


【畑での防寒】

収穫済みの株の下葉を球の頭上にかぶせる



外葉で球を包みポリテープや細縄で縛る



【畑での保温被覆】

列ごとにべた掛け資材(2~3重)や保温マットで覆う

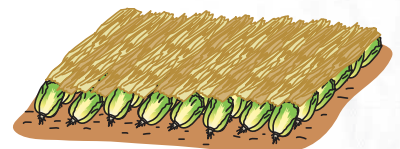
があります。これは、ハクサイを畑から根ごと引き抜いて、別の場所に根を下方に向けて密に並べ置き、上に稲わらなどの保温材で覆って寒さから守る方法です。この場合、寒害を受ける前に、通常よりもやや若取りすることが大切です。そして寒害を受ける直前に貯蔵に取り掛かるよう配慮します。この方法を上手にすれば、約2カ月も長期貯蔵することが可能です。

いずれの防寒、貯蔵方法でも、貯蔵する前にアブラムシやアオムシなどが寄生していると増殖してしまう恐れがあるので、事前に薬剤防除をすることが肝要です。

収穫後に短期間品質を保持するには、新聞紙にくるんで涼しい場所に立てて置くのが簡単です。これで約1週間鮮度を保てます。

【畑でまとめて貯蔵(約2カ月)】

根を付けたまま株を引き抜き、まとめて稲わらで覆う



【家庭での簡易貯蔵(約1週間)】

新聞紙にくるんで冷暗所に。頭を上に向けて

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

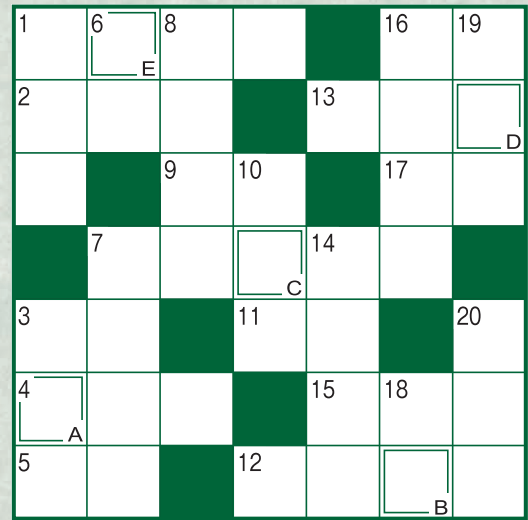
タテのカギ

- ① 2人組はコンビ、3人組は—
- ③ 親同士がいとこです
- ⑥ —に交われれば赤くなる
- ⑦ 「おはよう」とか「さようなら」とか
- ⑧ コロンブスはインドを目指して—を続けました
- ⑩ カカオ豆から作る飲み物
- ⑫ サンタクロースが乗ったそりを引きます
- ⑬ ブーケともいいます
- ⑮ 太陽が沈むとやって来ます
- ⑰ 進化の反対語
- ⑲ 人の言葉をまねるのがうまい鳥。—返しに答える

ヨコのカギ

- ① 大みそかには—そばを食べる人も多い
- ② 英語ではドラゴン。想像上の生き物です
- ③ 物を燃やすと残るもの
- ④ 鶏の頭の赤い冠
- ⑤ 何度も練習して、ようやく—をつかんだ
- ⑦ 「山!」「川!」
- ⑨ 現在よりも前です
- ⑪ 庭に掘りたがる犬もいます
- ⑫ デジタルカメラには装填(そうてん)しません
- ⑬ 少年剣士たちが振る物
- ⑮ 月曜と水曜の間
- ⑯ お子様ランチに立てられていることも
- ⑰ 狩りにも使われる鳥

二重マスの文字を A ~ E の順に並べてできる言葉は何でしょうか?



答え
A B C D E

応募要項

- 応募方法 ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・ご感想を記入して、下記宛先にお送りください。
- 賞品 正解者の中から抽選で地区本部毎に5名の方に「JA商品券」をお贈りします。
- 当選者発表 賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切 〒690-0823 松江市西川津町1635-1
JAしまね くにびき地区本部 ふれあい課 「クイズ」係
平成29年12月5日(火)(当日消印有効)

◆先月号の答え◆ 「コハルビヨリ」



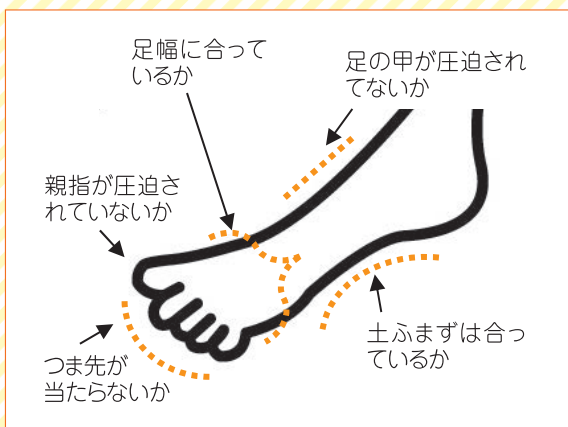
お預かりした個人情報、プレゼントの抽選・発送以外の目的で利用することはございません。

健康散步 JA島根厚生連

正しい靴選び

「足は第二の心臓」と言われていることをご存じですか? 足は歩行や運動をすることで筋肉を動かし、血液循環を促進させて足の裏まできた血液を全身に送り返すポンプのような役割をして心臓の動きを助けています。元気な体をつくるうえでも、歩行や足の運動は大切なポイントです。しかし、足に合わない靴は、足・膝・腰の痛みや、転倒の原因になることもあるため、正しい靴選びは重要です。つま先の細いハイヒールを長期間はいて外反母趾になったり、タコやウオノメ、扁平足、巻き爪になったりすることもありますから、足に合った靴を履くことで足の変形を予防することができます。

一般的に靴選びで大切な事は、つま先に余裕があり、足の甲はひもやファスナーなどで調節できる事、踵は包み込むようにしっかりと固定できる事、靴底の踵部分は幅広で安定している事などです。また、適切な中敷を選ぶことにより外反母趾やO脚による膝の痛みを和らげることが出来る場合もあります。



理事会情報 (9月28日開催)

協議事項

- ① 生産資材価格低減プロジェクトの取りまとめについて
- ② JAしまね内部統制整備方針設定について
- ③ 場所別部門別損益管理の統一基準について
- ④ 平成30年度事業計画の基本方針とスケジュールについて
- ⑤ 自己改革・組合員対策に関する今後の取り組みについて
- ⑥ 地区本部運営委員会運営規程の一部改正について
- ⑦ 文書取扱規程の一部改正について
- ⑧ 諸規程類管理規程の一部改正について
- ⑨ 「合同会社アグリサポートおーなん」への外部出資について

報告事項

- ① JAしまね農業振興支援事業のPR方法について
- ② 県への農業政策および予算に関する要望書の提出について
- ③ 平成29年度山陰ブロックTACパワーアップ大会発表大会の結果について
- ④ 西条柿共同利用施設の広域利用および

その他

- ⑤ 地区本部間連携について
- ⑥ 第11回全国和牛能力共進会宮城大会の結果について
- ⑦ 畜産情勢について
- ⑧ 平成29年度第3四半期の余剰金運用計画額および運用方針について
- ⑨ 組合と理事との取引(契約)の報告について
- ⑩ 不祥事件にかかる島根県からの注意喚起文書の受領について
- ⑪ 平成29年18号台風にかかる報告について
- ⑫ 平成29年8月末月次決算報告について
- ⑬ 特別損失にかかる会計処理について
- ⑭ 小水力発電所改修工事業者の決定について
- ⑮ 総代選挙の実施結果について
- ⑯ 平成29年度下期主な会議日程の一部変更について
- ⑰ 平成29年度「地域貢献・地域活性化団体活動表彰」受賞団体の決定について
- ⑱ 新退職金制度の設計方針について
- ① 農政をめぐる情勢について
- ② 収入保険制度の概要について(現状報告)
- ③ その他
青年理事による活動報告等

組合員アンケート調査へのご協力のお願い

JAしまねでは、より地域と一体となったJAであることを目指して、無作為に選ばせていただいた組合員の皆さま6,000名を対象にアンケート調査を実施させていただきましたことといたしました。

本年12月中旬に、対象者の皆さまに郵送にてアンケート調査票を送付させていただきますので、お忙しいこととは存じますが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

JAしまねびより10月号の記載内容に関するお詫びと訂正

P7. 第11回 全国和牛能力共進会 結果報告 第7区 (総合評価群:肉牛群) 出品No.7 JA仁多肥育センター (誤) 雲南市 → (正) 奥出雲町
謹んでお詫びいたしますとともに、訂正させていただきます。

知って納得JA

—協同組合の力—

Q JAはなぜ銀行や保険会社のような事業をしているの?

A 信用・共済事業を通じて、組合員の営農とくらしを守り、より豊かにするためです。

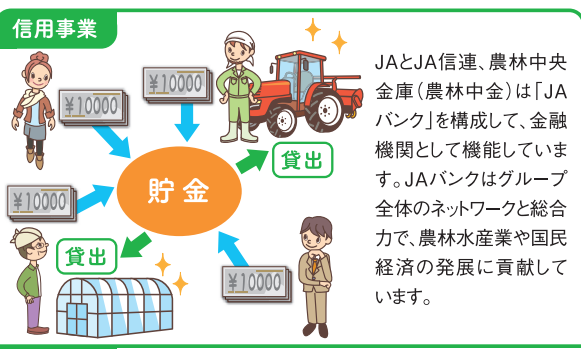
協同組合のルーツの一つは信用・共済事業です。特に農村では、地域の人々がお金や米を出し合って積み立て、そこから困った人のお金を借りたり、災害に遭われた人にお金や米を援助したりするなどの仕組みが、草の根的につくられてきました。こうした地域の「相互扶助」の仕組みが、信用・共済事業として発展してきました。

JAの信用事業は、組合員間で資金を積み立てて融通し合うので「相互金融」と呼ばれ、組合員の営農やくらしに役立てられています。

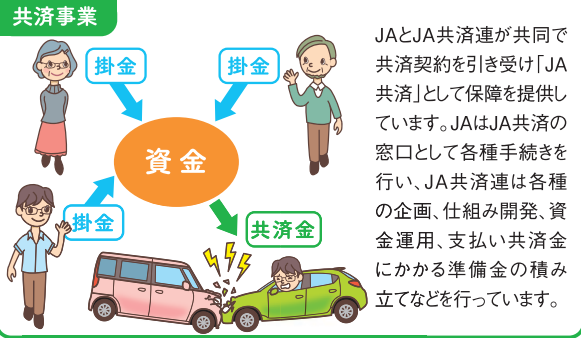
JAの共済事業は、互いを信じ救い合う「相互扶助」の精神の下で行う非営利事業です。組合員のくらしを守るため、「ひと」「いえ」「くるま」などの保障を充実させています。

(監修=広島大学 助教 小林元)

「協同の精神」に基づいて行われる JAの信用・共済事業



JAとJA信連、農林中央金庫(農林中金)は「JAバンク」を構成して、金融機関として機能しています。JAバンクはグループ全体のネットワークと総合力で、農林水産業や国民経済の発展に貢献しています。



JAとJA共済連が共同で共済契約を引き受け「JA共済」として保障を提供しています。JAはJA共済の窓口として各種手続きを行い、JA共済連は各種の企画、仕組み開発、資金運用、支払い共済金にかかる準備金の積み立てなどを行っています。

耕そう、大地と地域のまらい。

JAしまね統合2周年企画旅行

出雲縁結び空港より



直行チャーター便で行く!!



「はての浜」久米島と宮古諸島5島巡り

(宮古島・伊良部島・下地島・池間島・来間島)

3日間

現地では
JAしまね統合2周年企画として
JA特産品が当たる
抽選会を実施!!

2泊とも2名様より1部屋をご用意

旅行実施日 平成30年

2月21日(水)~23日(金)

旅行代金 (大人お1人様2名様1室利用、出雲縁結び空港起点、税込)

149,800円

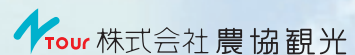
※お1人部屋ご希望の場合2泊で18,000円(税込)の追加になります。
※お1人様お申込で相部屋をご希望の場合でも、相手が見つからない場合、お1人様1部屋追加料金を申し受けます。

西部地区(島根おち・いわみ中央・西いわみ)より便利な送迎プラン

島根県西部地区より出雲縁結び空港まで往復8,000円(税込)にて送迎バスをご利用いただけます。(配車場所についてはお問い合わせ下さい)
※送迎バスプラン希望者が20名様を上回る場合、運行されません。19名様以下の場合、お客様自身で出雲縁結び空港迄お越し下さい。

掲載のツアーは、この広告でのお申し込みを受け付けておりません。

※詳しい旅行については、専用パンフレットをご用意しております!お気軽に最寄りのJA旅行センターへご請求ください!



- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| JAしまねくにびき旅行センター ☎0852-55-3041 | JAしまね出雲旅行センター ☎0853-21-3305 | JAしまね島根おち旅行センター ☎0855-83-0008 |
| JAしまねやすぎ旅行センター ☎0854-28-6699 | JAしまね斐川旅行センター ☎0853-73-9625 | JAしまねいわみ中央旅行センター ☎0855-22-8820 |
| JAしまね雲南旅行センター ☎0854-42-9118 | JAしまね石見銀山旅行センター ☎0854-82-3501 | JAしまね西いわみ旅行センター ☎0856-22-8587 |



JAしまね

定期貯金

あったか キャンペーン 2017

キャンペーン期間 2017.11.1(水)-12.29(金)

期間中、定期貯金(20万円以上)を
新規でご契約いただいた方に
最大3つの特典プレゼント!!

特典1 もれなくちよリスグッズプレゼント!!



さらに
給与振込・年金受取・年金予約・
各種ローン・JAカード・ネットバンクの
いずれかのお取引がある方、または、
期間中に新たにいずれかのお取引をご契約いただいた方
特典2・3をプレゼント!!

特典2 ちよリスグッズプレゼント!!



特典3 ご契約いただいた方の中から
抽選でプレゼント!!

美味しく食べよう島根のお米

ご契約額20万円につき抽選権を1口お付けします。

10名様 高級炊飯器&
島根米のセット



600名様 島根県産
ごはんのお供セット



懸賞要領

対象商品/定期貯金(期間1年以上)、結いの恵み
※上乗せ金利の適用があるものを除きます。
※窓口でお預け入れいただいたものに限りです。

応募対象者/・期間中、定期貯金を新規で20万円以上契約または、20万円以上増額された個人の方。
・期間中、結いの恵みを新規で契約された個人の方。

賞品内容/10名様に高級炊飯器&島根米のセットをプレゼント
600名様に島根県産ごはんのお供セットをプレゼント

応募方法/対象商品ご契約額20万円につき抽選権を1口お付け
します。

当選発表/平成30年1月下旬頃、ご当選された方に対し当選通
知をお送りします。

抽選権の失効/抽選日の前日までに懸賞対象商品が中途解約されて
いた場合、懸賞抽選権は無効となります。

個人情報の取扱/取得したお客様の個人情報は賞品の抽選・発送のためにのみ使用しま
す。

JAバンクは、どなたでもご利用いただけます。くわしくはお近くのJA窓口までお問合わせください。

エリンギパスタ



エリンギの輪切りとみじん切り二つの食感が楽しめるパスタです。キュッキュとエリンギの音がするまで炒めましょう。

●材料（2人分）

パスタ……………	160g	にんにく……………	1かけ
エリンギ……………	1パック	オリーブ油……………	大さじ2
ミニトマト……………	1/2パック	塩……………	少々
トマト……………	1個	こしょう……………	少々
合いびき肉……………	80g	大葉……………	2枚

●作り方

- ①エリンギは1cmの輪切りにし、上の部分は粗いみじん切りにする。
- ②ミニトマトは横に半分切る。
- ③トマトは皮付きのまま、ざく切りする。
- ④にんにくはみじん切りにする。
- ⑤塩を入れた湯でスパゲッティを茹ではじめる。
- ⑥フライパンにオリーブ油、にんにくを入れ火にかける。
- ⑦合いびき肉を入れ炒める。
- ⑧エリンギは、塩を少し入れ炒める。
- ⑨ミニトマトを入れ炒め、少ししたらトマトを入れ炒める。
- ⑩塩、こしょうをしてパスタを絡める。
- ⑪ぎざんだ大葉をのせる。

ほうれん草のミルクポタージュ



緑色の体も心も温まるスープです。ほうれん草嫌いなお子様でも食べられるかしわません。鉄分たっぷりなほうれん草の青臭さもなくなり、したくなる優しい味のスープです。

●材料（4人分）

ほうれん草……………	1束	牛乳……………	3カップ
長ねぎ(斜め薄切り)…	1/2本分	生クリーム……………	1/2カップ
オリーブ油……………	大さじ1	塩、こしょう……………	各少々
米粉……………	大さじ3	生クリーム(仕上げ用)…	適宜
固形スープの素……………	1個		

●作り方

- ①ほうれん草はゆでて3cmの長さに切る。
- ②鍋にオリーブ油を熱し、長ねぎを炒める。しんなりしたらほうれん草と米粉を入れ炒める。
- ③水1カップと牛乳、固形スープの素を加え、鍋底をへらでときどきかき混ぜながら、弱火で煮る。
- ④火を止め、バーミックス又はミキサーでなめらかにつぶし混ぜる。
- ⑤鍋に戻し生クリームを加えて温め、塩、こしょうで味を調える。

表紙紹介

表紙のイラストは野々村 直通 (ののむらなおみち) 先生に描いていただいています。

今月の表紙は、隠岐郡西ノ島町にある焼火神社 (たぐひじんじや) です。一条天皇の時代 (1000年頃) の創建と伝えられています。本殿は山腹の岩窟に半ば埋もれるように建てられており、本殿・通殿・拝殿からなる社殿は国の重要文化財に指定されています。また、神社一帯は県の天然記念物に指定されています。

編集後記

今月のトピックスに掲載した子育てフェスinいわみには、当部署からも出店しました。JAグループの子ども雑誌『ちゃぐりん』に掲載されている工作を子どもたちにとって遊んでもらいましたが、準備した工作セットが昼過ぎにはなくなってしまうほどの大盛況でした。(藤)

【今月の表紙の原画】

レイアウトの都合により表紙のイラストは原画の一部表示となっています。原画の全体は次のとおりです。

